

【新説ソアラ様】

どら焼きパンケーキ中佐

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ゲキテツ一家のシアラ様は震電から降りる際にコケて記憶を失って……??

目次

く幻のシアラの妹ソアラ様伝説く	【①く②】	一部	1
く幻のシアラの妹ソアラ様伝説く	【③く④】	二部	4
く幻のシアラの妹ソアラ様伝説く	【⑤く⑥】	《完結》	7

く幻のシアラの妹ソアラ様伝説く 【①く②】 一部

【#新説ソアラ様】①

《私はシアラの妹のソアラと申します》

くシアラ組飛行場く

「シアラ様の震電がご帰還だ……シアラ様をしつかりお迎えするよう
に……!!」

シアラ組の副官のヴィトさんが組員に檄を飛ばしています。

「あぁっシアラ様……!!早く、早くこのヴィトをその綺麗で艶めかしい御御足でお踏みください……!!」

ヴィトさんは、結構なM気質の癖がおありのようですね……

「ふうく震電は雷電と違って居住性は絶望的だわ……」

シアラ様がコクピットから降りました。

しかし、シアラ様はらしくないことに脚を踏み外してこけてしまいました!!

「シアラ様……!!シアラ様……!!シアラ様……!!」

ヴィトさんはパニックです!

シアラ様にたっぷり踏んだり蹴ったりしてもらったことばかりが頭を支配していたのです……

「うくん……あら?ここはどちらですか?私は誰ですか?」

ヴィトさんをはじめ、シアラ組一同は戦慄を覚えました……

ヴィトさんは、とっさに思いつきを口走りました。

「おかえりなさいませ……シアラ様の妹君、ソアラ様。お久しぶりでございます。」

「私はソアラ……お姉様はシアラというお名前なのですね」

(私は取り返しのつかないことをしてしまったのではないだろうか……)

こうして、シアラの記憶を失ったソアラの物語が始まったのです。

(つづく)

【#新説ソアラ様②】

《まあ♪これがシアラお姉様の震電ですか?》

〜前回までのあらすじ〜

震電から降りる際にこけたシアラ様は記憶を失ってしまいました
……ワイトさんはとっさに意識が回復したシアラ様を【ソアラ様】と
して接してしまいました……

☒第二話☒ 《まあ♪これがシアラお姉様の震電ですか?》

シアラ組の副官のワイトです：大変です！シアラ様が：シアラ様が：私を踏んでくださら（ryゴフンゴフン!!シアラ様が記憶喪失になってしまわれた!!

私は意識が戻られたシアラ様がご自分の記憶を無くされていることを悟りとっさにソアラ様というシアラ様の妹君をでっち上げてしまったのだ……

2

「あの〜ワイトさん??」

「ひゃい?!ソアラ様つ!!ななななななんでございますか?」

「その震電お借りできますか?」

タネガシに神や仏が居るのならば何とも酷い！姿かたちがシアラ様のソアラ様が仰つることに副官の不肖ワイトに拒否権なぞであろう
はずがございませんでした!!

「ハッ!!いつ何時でも飛び出せます!」

「あら?嬉しいわ〜♥それでは、行ってきますね」

ぶう〜ん……!!

ソアラ様は行き先も言わずに行かれてしまわれた。

「ソアラ様の行き先を突き止めるのだ。我々の命を賭けて探せ……

!!

『あぁっソアラ様っ』

(っづく)

く幻のシアラの妹ソアラ様伝説く 【③く④】 二部

【#新説ソアラ様】③

【第三話】《あら♥ニコ様こんにちは♥》

く前回までのぎっくりあらずじく

シアラ組副官のヴィトです シアラ様がソアラ様になって震電に乗ってテイクオフしてしまいました……!!

くニコ組のシマく

「シアラの震電が来やがったぞ!!ニコ組の気構えを忘れるな!!」

ニコ組の副官トラオは想像豊かな暴走妄想な人物です。

「シアラか……勝手にさせておけ……」

組長のニコが静かな口調で言います。

「なんて懐が深いお方なんだ……!!」

トラオは感嘆しました。

ヒューン…キキツ!!

ソアラ（シアラ）の震電が華麗に着陸しました。

「ニコ組の皆様お元気ですか?ごきげんよう♥シアラの妹のソアラと申します。よろしくお願いいたします♪」

? (. Δ .) ? 『か……かわいい♥♥♥』

ニコさんはソアラ様にメロメロの様子でしたが、子分たちの前でシアラの姿の人間にメロメロな姿を晒す訳にはいきませんでした。

「ソアラか……よく来たな。なにか問題があるのか??」

『流石ニコ組長だ……シアラの妹と聞いても対応に変わりはしねえ……』
……こと次第によっては血の雨が降るぜ……』

トラオさん、考え過ぎですよ……

「あら♥ニコ様こんにちは♥」

ソアラ様は?ニッコリとニコさんに微笑みました。

Σ(°?||???)?♡ズキューン 『ウツ♥』

「よく来たな。お前がシアラの妹のソアラか?」

「はい♥ニコ組♥」

Σ(°?||???)?♡ズキューン 『身が持たない♥』

「震電が動作不良を起こしたそうだな。私が修理しておくから事務所で待っていてくれ。」

「ありがとうございます♥ニコ様♥」

／／「(, ω,)」／／／『グハツ♥』

ソアラ様はニコ組事務所でおもてなしを受けました。

「シアラは高慢ちきな女だが妹は淑やかなんだな!」

「なんて♥姉のシアラがなんて?♥」

「え……」

「ソアラ、組の者の非礼を許して欲しい。ニコ組とシアラ組はもともと反りが合わないところがあると思う。」

「残念です……」

「また、改めて茶でも飲みに来てくれ……」

「はい♥ありがとうございます♥ニコ様♥」

(°?) 『グハツ!!』

ブーン!!

ソアラの震電は発動機が機嫌の良い音色を奏ながらテイクオフして行きました。

ニコ組長は鼻血が多量に出血してあわや大惨事でした……

(つづく)

【#新説ソアラ様つ】④

《ソアラ、ただいま戻りました♥》

く前回までのざっくりあらすじく

ニコ組を訪ねたソアラはニコ組を結果として振り回した挙句の果てにニコは鼻血で大出血をして、てんやわんやでした……

第四話《ソアラ、ただいま戻りました♥》

シアラ組副官のヴィトです。

シアラ様、もといソアラ様がどこかへ飛び出されてから幾星霜《数日間》このヴィトは生きた心地がしませんでした……

私は一刻も早く、シアラ様にお踏みいただきたい!! ああつソアラ様は何処に……!!??

ブーン……キュキュツ!!

「ふう……着きましたわ♥あら?ヴィトさん♥お迎えありがとうございます♥ございます♥」

なんともつたいないお言葉!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

「ヴィトには当然の行いにございます。ところでソアラ様は何処に向かわれておいででしたのでしょうか?」

「ちよつとニコさんにご挨拶に行つて参りましたわ♥とってもご親切になさつてくださいましたわ♥」

「ニコ組……!!!!!!!!よりにもよつてニコ組……ニコ組とシアラ組の仲の悪さはゲキテツ一家でも指折りの有名さなのにソアラ様には御関係ありませんでしたか?」

「シアラお姉様とニコさんが仲が悪い??ご冗談を……♪ニコ様は素直になられていらつしやつてないのですわ♥」

「はあ……」

《シ・・・・》↑ヴィトさんのココロ

『この調子で私は持つのだろうか?シアラ組の状態も私の状態も……』

ぴえん

(つづく)

く幻のシアラの妹ソアラ様伝説く 【⑤く⑥】 《完結》

【#新説ソアラ様っ】⑤

第五話 《御機嫌よう♪イサカ様♪ソアラですわ♥》

く前回のざっくりあらすじく

ヴェイトさんの心配も知らずにソアラ様（記憶喪失中のシアラ様の代理人人格）は震電を駆りテイクオフしてしまいました……!!ニコ組で賑やかな(?) 親睦を深めるソアラ様なのでした……

く☒タネガシ ゲキテツ一家 イサカ組☒く

「ん?サダクニ……??向こうからシアラの震電が来ているようだが約束は無かったな。」

「はい。先程シアラ組のヴェイトから、《ソアラ様》がそちらに向かったのでくれぐれも（ry と通信連絡がありました。」

「そうか。ではシアラはソアラとして扱うのだな。」

「次のスケジュールまでにソアラ様にお使い頂ける時間は35分です……お気を付けください……」

ブーンくくくくくキキュツ!!

「あら、少し着陸地点がズレましたわ♪あっ♪イサカ様っ♪御機嫌よう♪ソアラですわ♥」

「ああ、お前がシアラの妹のソアラか。よく似ているな。」

「あら?嬉しいですわ♥イサカ様お上手ですこと!!ウフフツ?」

『(Θ?・Θ)(Θ?・Θ)(Θ?・Θ)(Θ?・Θ)(Θ?・Θ)(Θ?・Θ)』
「イサカ組長。スケジュール予定時刻まであと3分です……」

「えっΣ(。D。;) 3分!!はわわっ(。°。D。、≡。°。D。、)」

「ソアラ様。申し訳ございませんがイサカ組長はスケジュールの都合上ここで失礼いたします。また後日アポイントをお取りの上でお越しください。」

「あら、失礼しましたわ……ではソアラも失礼致しますわ。それではまた会いましょう。サダクニ様？」

〜☒タネガシ ゲキテツ一家 シアラ組☒〜

ブーン〜〜〜〜〜キキュツ!!

「やはり今日は着陸地点がズレますわ？」

「ソアラ様つご無事でなにより……ヴィトは心配で心配で……」

「ヴィトさん……ごめんなさい。」

《違うんだ……私はシアラ様に踏んで戴きたいだけなんだ〜〜〜
〜〜〜!!!!!!!!!!!!》

(笑)

(つづく)

【#新説ソアラ様つ】⑥ 《最終話》

☒幻のソアラ様つ☒

シアラ様の副官ヴィトです。

シアラ様がソアラ様になられたその日から、私はものたりない日々
にございます……

「あら？ヴィトさん☒ぎげんよう？」

『違うそうじゃない!! 私はシアラ様に踏んで戴いてなんぼな人間だ
ぞ!!』

ソアラ様が私の苦悩を知らないままで自室に向かわれた矢先にイ
ジツの高級フルーツ☒バナ☒の皮が放置されて……

「ソアラ様つ!! ストップ!!!」

「えっ？」

ズルツ!!ソアラ様は昏倒されました!

ソアラ様の意識回復をひたすらお待ちしました……

〜ある日〜

「良く寝たわ〜♪」

「ソアラ様??」

「ソアラ?? 誰よ! 私はシアラ様!! このわからんちん!!」

「シアラ様っ♪ お懐かしゆうございます!! もつと踏んでください!!」

「頼まれたら興が冷めるわ〜」

「そんなご無体な……」

《ソアラ様っ短い間でしたがヴェイトは楽しゆうございました……》

「ヴェイト!! 早くなさい♪」

「御意」

☒本日よりシアラ組は通常運転です☒

「完」